



## 《 ピロリ菌検査の実施状況について 》

\*これまでにピロリ菌の検査を受けたことがありますか？

- ・ない
- ・ある

検査結果・その後の状況 にあてはまるものに○をつけてください。

- ① 陽性で除菌治療を受け成功した
- ② 陽性で除菌治療を受けたが除菌できなかった  
⇒ 除菌治療を受けた回数 \_\_\_\_\_ 回
- ③ 陽性だったが除菌治療を受けていない
- ④ 陽性だったが、その後どうしたか覚えていない
- ⑤ 陰性だった
- ⑥ 結果を覚えていない

### ●ピロリ菌について

日本人の胃がんの原因の99%はピロリ菌感染です。井戸水飲用での感染率が高いほかに家族内感染もあります。ピロリ菌に感染すると慢性的な胃炎を起こし、胃炎が進行するほどに胃がんリスクが高まります。ピロリ菌に感染している場合、除菌治療を受けて成功すると胃がん発生リスクは1/3程度に減ります。胃カメラ検査の結果でピロリ菌検査を推奨された場合は現在の感染が疑われますので検査を受けることをおすすめします。ピロリ菌検査は当日の追加も可能です。

当院でのピロリ菌検査は血液と便の二通りがあり、いずれの検査も長所・短所や精度の限界がありますが、現在感染している人を陽性とする検出率はほぼ同等です。

血液 ⇒ ピロリ菌に感染したことにより体で作るタンパク質の一種である『抗体』の量を調べます

- ・採血で行えるので手間がかかりません
- ・偽陽性となる場合があります（体質のほか、過去の感染で陽性となることもありますので  
**除菌治療を受けたことがある人には不向きな検査です**）
- ・感染成立直後の場合や体質などにより偽陰性となることがあります

便 ⇒ 便に混ざっているピロリ菌の成分『抗原』の有無を調べます

- ・大腸がん検診用とは別容器で便検体をご提出いただく必要があります（後日提出可能）
- ・胃酸分泌抑制剤（パリエット・オメプラール・タケプロン・ネキシウムなど）を服用中の場合、**感染中であっても偽陰性となることがあります**
- ・除菌治療後の確認の場合にはこちらの検査をおすすめします

ピロリ菌検査で陽性の場合、

- ①胃カメラ検査で胃がんがない（胃がんがあれば胃がん治療が優先されます）
- ②胃カメラ検査でピロリ菌感染を示唆する所見がある

などの条件に該当していないと保険診療での除菌治療を受けることができません。

陽性となった場合は消化器科でのご相談となります。

なお、除菌薬剤に耐性のあるピロリ菌がいますので、除菌服薬後は治療効果判定の検査が必要です。